[プラスキューエー] 大学評価室ニューズレター

大学評価室ニューズレター HOSEI

7

Quality assurance for HOSEI

法政大学総長室付大学評価室 東京都千代田区富士見2-17-1 tel.03-3264-9903 No.7 通巻7号 2011年4月発行

法政大学総長 増田壽男 1

シリース数段(第4回):デーラルを表える数値数値

公文溥 大学評価室長×太田九二 教育開発支援機構長 2

保護者アンケートの結果から 3

法政卒業生大学評価アンケートの結果から 4

欧州大学訪問調査報告 5

第2期 点検評価企画委員会がスタート 6

認証評価までのスケジュール 6

NEWS/活動報告/編集後記 6



法政大学総長 増田 壽男

MESSAGE

認証評価申請に向けて

2011年度は認証評価申請に向けての準備をする重要な年に当たります。過去2年間行なってきた自己点検評価を活用し、より実りあるものにしていただきたいと思います。

過去2年間行なってきた各学部長による他学部のコメントや、外部評価委員によるコメントを参考にして、今年度努力すべき点について若干の指摘をしたいと思います。

第一は理事会で作成した大学の理念・目的と各学部の教育目標や3つのポリシーとの関連がはっきりしないというコメントについてきちんと答える必要があると思います。「自由と進歩の精神」がどう具体化していくのかを理事会および各学部等は明確にする必要があると思います。

第二には各学部等の中期目標を数値化する必要がある と思います。ある程度数値化することによって毎年の達成 度を計測することによって、目標をよりはっきりしたものにす ると同時に学部の欠点を明確にする必要があると思います。

第三には卒業生アンケートで見られる各学部での教育に対する満足度を真剣に考える必要があるということです。 卒業生はかなり率直に学部教育に対する不満を語っている と思います。これに真摯に答える努力をすることがよりよい 教育につながると思います。

これらの点を十分に考えて今年度の認証評価に望んで 欲しいと思います。 TOPIC 1

シリーズ対談 (第4回): 学士力を支える教養教育



公文 溥 [大学評価室長]×太田 九二 [教育開発支援機構長]

法政大学における内部質保証の在り方を考える企画として「シリーズ対談」の第4回では、教育開発支援機構長に就任した太田九二教授にお話しをうかがいました。同機構の3センターのうちFD推進センターの取り組みについては、本誌第4号(第1回対談)で詳しくご紹介しましたが、今回は新たに設置された市ヶ谷リベラルアーツセンターと学習支援センターの取り組み活動も踏まえて、内部質保証への展望について語っていただきました。

公文 本日は、教育開発支援機構の機構長の太田九二 先生に、お話を伺いたいと存じます。テーマは教育の質保証に関連する機構の取り組みについてです。まず機構は、全学的な教育支援施策の企画・開発等のFD活動支援を行うFD推進センター、市ヶ谷キャンパスの教養教育全体の基本理念・目的や共通カリキュラムの開発支援を行う市ヶ谷リベラルアーツセンター、教育・学習環境の整備と学生の主体的学習の支援のための全学的な施策の企画・提案・調整を行う学習環境支援センターの3つでしょうか。

太田 具体的には、FD推進センターでは、FDの啓発活動のためにシンポジウム・フォーラム・ワークショップ等の企画・実施を行い、教員の授業改善支援のために「学生による授業改善アンケート」やGPAの活用方法の検討と提案などを行っています。また、市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、教養教育の在り方やICT教育、英語教育などの教養教育の関する各種のプロジェクトを立ち上げ、教育の在り方を検討しています。さらに、学習環境支援センターでは、学習ステーションを立ち上げて、学生の主体的学習をサポートするためのハード・ソフト両面にわたる学習環境の支援を始めました。

公文 教育開発支援機構は、教育の質保証に関して、直接的に対応しておられるのですが、大学評価室では質保証の「質」は、学生の能力の育成と向上を担保することと考えております。こうした観点から全学的な質保証の側面と市ヶ谷キャンパス固有の課題の二つの側面について、どのような方向で推進されるとお考えでしょうか。

太田 教育開発支援機構では、全学的な質保証と単位制度の実質化の観点から、FD推進センターのプロジェクトにおいて、各学部の進めている教育改革への情報提供と学士課程教育の再構築の取り組みをサポートして行きます。また、市ヶ谷キャンパス固有の課題としては、ここでの教養教育が学部横断的に行われていますので、それのメリットを生かし、共通カリキュラムの開発支援を積極的に取り組んでいき、さらに、これを全学的な方向に進めていければと思います。

公文 具体的には、どんな施策を実施しておられますか。 太田 具体的には、現在進行中の共通カリキュラムの開 発支援プロジェクトとしては、ICT教育プロジェクトで、 情報教育に関するガイドラインを作成しました。今後、こ れをベースにe-ラーニングの導入等を図っていきたいと考 えています。また、教員の授業改善支援については、学 内の各教学単位に特化したFDの推進や、「学生による授 業改善アンケートのさらなる有効活用も検討しています。 学習環境支援センターでは、今年度まず、3キャンパス それぞれの「学習施設ガイドマップ」を作成しました。さら に、今年度立ち上げた学生の学習活動を直接支援するた めの学習ステーションは、まずは市ヶ谷キャンパスでの活 動が主体となりますが、今後多摩、小金井のキャンパスに もそれぞれのニーズに応じて、拡大したいと思っています。 公文 ありがとうございました。各学部は育成する人材像 を持って、それにふさわしい能力形成のための教育を実 施いたします。教育開発支援機構は、汎用的能力、倫 理・態度といった重要な側面で、学部と協力しながら学 生の能力向上に積極的な役割を果たすことを期待いたし ます。

保護者アンケートの結果から

2回目の調査

大学評価室では、2010年11月から12月にかけて学部学生の保護者2000名を対象にアンケート調査を実施しました。 2009年度に引き続き2回目の実施となる今回は、昨年度を上回る841名 (回収率42.1%)の保護者の皆様から回答を 頂きました。その結果を抜粋して紹介します。

- 保護者の法政大学に対する満足度は極めて高い(72.9%)
- 7割以上(71.6%)が「法政大学は社会的にも高く評価されている」と評価 2
- 法政大学が今後さらに充実すべき点は、「就職支援」
- 55.6%が「身近な大学進学希望者に法政大学を勧めたい」と回答

Ι 法政大学および入学学部に対する満足度

図1:法政大学に対する満足度(%)

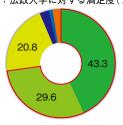


図2:入学学部に対する満足度(%)



<満足の理由>

- ・伝統ある大学の学部だから。
- ・社会的に知名度が高いので。
- ・安定感、安心感がある。
- ・東京六大学に入学してほしいと思っていたから。

<不満の理由>

- ・マンモスすぎて、学生ひとりひとりに目が届かな いようで淋しい気がする。
- ・大学、学部からの発信にアピールがない。就職 支援も弱過ぎる。

法政大学に対する満足度(「満足 している」+「やや満足している」 の割合。)は72.9%、入学学部に 対する満足度は61.6%であり、大 学への満足度が11.3%上回ってい る。前回の2009年度調査では、 大学71.6%、学部60.6%であり、 ほぼ同様の結果でした。

表1 学部別の満足度比較(%)

学部名	法政大学への満足度(A)		入学学部への満足度(B)		A-B	標本数
于即石		()は09値 ()は09値				
法学部	73.2	(73.8)	68.5	(69.2)	4.7	127
文学部	73.6	(62.5)	57.1	(51.4)	16.5	91
経済学部	66.7	(68.9)	47.3	(49.2)	19.4	129
工学部	78.3	(74.4)	56.5	(69.2)	21.8	23
社会学部	80.8	(70.8)	68.7	(57.3)	12.1	99
経営学部	70.2	(78.3)	59.5	(68.7)	10.7	84
国際文化学部	71.4	(74.3)	77.1	(74.3)	-5.7	35
人間環境学部	67.5	(73.0)	55.0	(56.8)	12.5	40
現代福祉学部	81.3	(77.4)	53.1	(83.9)	28.2	32
情報科学部	71.4	(76.2)	61.9	(81.0)	9.5	21
キャリアデザイン学部	76.5	(74.3)	61.8	(42.9)	14.7	34
デザイン工学部	64.3	(76.0)	66.7	(52.0)	-2.4	42
理工学部	70.7	(69.7)	56.1	(57.6)	14.6	41
生命科学部	85.0	(42.9)	85.0	(50.0)	0	20
グローバル教養学部	100	(100)	75.0	(100)	25.0	4
スポーツ健康学部	76.9	(75.0)	84.6	(75.0)	-7.7	13
全学	72.9	(71.6)	61.6	(60.6)	11.3	841

網掛けは全学値以上の学部。

Ⅲ 情報提供について 図4:情報提供の満足度



約6割(59.2%) が満足と回答し ています

Ⅱ 本学が今後さらに充実すべき点

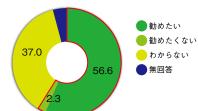
図3:本学が今後さらに充実すべき点(回答数)



最も多いのは就職支援で、以下、教養教育、専門教育、キャリア 教育、英語教育と続いています。 なお、上位5項目および最下 位の順位は昨年と同様です。

Ⅳ 法政大学を勧めたいと思うか

図5: 法政大学を勧めたいか



56.6%(前年度は 55.1%)の保護者 が「勧めたい」と 回答しています。

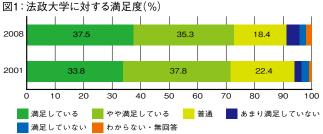
法政卒業生大学評価アンケートの結果から

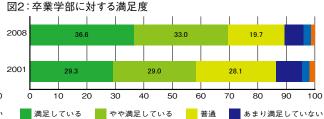
卒業後3年目、10年目の方を対象に実施

大学評価室では、2010年12月から2011年1月にかけて、卒業後3年目 (2001年3月卒) および卒業後10年目 (2008年3月卒) の卒業生を対象にしたアンケート調査を実施しました。その結果を抜粋して紹介します。有効回答数: 2001年卒 331件 (回収率: 9.1%) 2008年卒 533件 (回収率: 10.4%)

- 1 7割以上の卒業生が「法政大学に満足」と回答
- 2 身に付けることができた能力は、「コミュニケーション力」と「教養」
- 3 法政大学が今後さらに充実すべき点は、「専門教育」と「英語力」
- 4 5割以上が「身近な大学進学希望者に法政大学を勧めたい」と回答

I 法政大学および卒業学部に対する満足度





法政大学に対する満足度(「満足している」+「やや満足している」の割合。)はいずれも7割を超えています。

図3:2001卒 学部別の満足度比較(%)

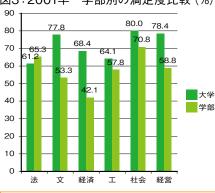
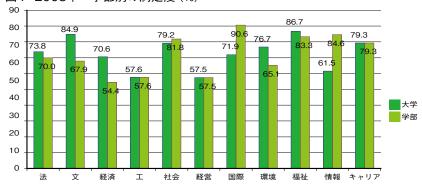


図4:2008卒 学部別の満足度(%)



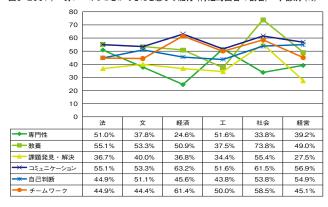
満足していない わからない・無回答

2001卒では、大学・学部ともに、社会学部が最も高くなっています。

2008卒では、大学満足度は現代福祉学部が、学部満足度は国際文化学部が最も高くなっています。

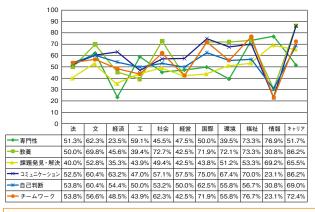
Ⅱ 大学での授業や活動を通して身につけた能力

図5:2001卒 身につけることができたと感じる能力(肯定的回答の割合)-学部別(%)



専門性は工学部と法学部で高く、経済学部で低くなっています。

図6:2008卒 身につけることができたと感じる能力(肯定的回答の割合)-学部別(%)



キャリアデザイン学部が専門性を除き各項目で高い数値となっています。

アンケートの詳細については大学評価室にお問い合わせ下さい。

欧州大学訪問調査報告

イギリス・ドイツの大学における内部質保証システムを訪問調査

2011年2月6日から13日、ヨーロッパを訪問しイギリスのキングス・カレッジ・ロンドン、バーミンガム大学の2大学、ドイツのヨハネス・グーテンベルグ大学マインツ (以下、マインツ大学)へ調査を行いました。各大学での聞き取り項目は主に、①法人および学部内の内部質保証システム、②教育プログラム評価の実際、③ラーニングアウトカム評価の方法と指標などです。訪問先の選定にあたっては、先進的な国別の質保証システムについてすでに調査実績のある(財)大学基準協会に相談しました。

なお本学の調査団は、公文大学評価室長(社会学部教授)、上林社会学部教授、山田大学評価室課長の3名です。 以下に3大学の内部質保証体制に関する概要をご紹介します。

1 キングス・カレッジ・ロンドン (King's College London)

面談者: Ms. Hilary Placito, Deputy Registrar (Quality)

ロンドンの中心部テムズ川周辺に4つのキャンパスが学部別に分かれています。 イギリスでは大規模研究型大学のトップ20のひとつ (ラッセル・グループのメンバー)。 学部生約14,000名、大学院生8,600名。 教員数2,800名 職員数2,700名。

質保証事務局は、アカデミック・サービス (学務部門)の中に置かれQAAによる英国認証評価に対応する専門部署です。学習・教授支援、研究・大学院支援、学生データ分析の3つのチームに分かれて教育研究活動のサポートを行っています。また、各種教学関係の委員会も分掌しています。



キングス・カレッジ・ロンドン ウォータールーキャンパス

2 バーミンガム大学 (University of Birmingham)

面談者: Dr. Mike Beazley, Senior Lecturer, Mr. Mark Jeffery, Academic Quality Officer



バーミンガム大学 対談風景

バーミンガムはロンドンの北西に位置し、電車で1.5時間ほどです。学部生約 17,500名、大学院生8,500名。教員2,500名、職員1,250名。イギリスの研究型大学のトップ20 (ラッセル・グループ)のひとつ。

質保証・改善担当の副学長のもとでアカデミック・クオリティ・ユニットが実施するBIQAES (バイクス) と呼ばれる評価システムを運用しています。評価委員には、学生の代表者も加わります。外部の評価委員の数は約400名とのことです。質保証委員会は大学とカレッジの両方のレベルで存在しています。

3 マインツ大学 (Johannes Gutenberg University Mainz)

面談者: Dr. Sabine Fahndrich 他3名

マインツは、フランクフルト空港よりアウトバーンで西へ30分ほど移動した都市です。ライン川に面し、中世よりマインツ大司教の司教座聖堂が有名です。マインツ大学の正式名称は、活版印刷の発明者ヨハネス・グーテンベルクの出

身地に由来しています。学生数は約35,000名、教員2,800名(うち560名は Professor)。

ボローニャプロセスの一環として教育改革が進行中で1999年から質保証・開発センター (ZQ) を設置し全学的な評価システムを実施しています。17大学が加盟する評価機関の運営事務局となっています。現在は研究者25名、学生25名のスタッフが配置されており、同機関のプロジェクトとして教授法、内部・外部評価、システム評価、プログラム評価、高等教育に関する研究、卒業生調査などを行っています。



マインツ大学 ZQ前

今回はイギリスとドイツの二国のみの訪問でしたが、両国とも質保証に関してはかなり先進的でした。内部質保証システムの運用には、国際的な研究ネットワークが基盤にあり、それぞれの国により事情は異なりますが日本のシステムに比べQuality Assurance and Enhancementという文化が根付いていてかつ一般的であることが実感できました。本学でも今後は国内大学のみならず、国際的な動向にも目を向けながら教育の質向上に繋がる大学評価のしくみ創りに取り組んでいきたいと思います(山田記)。

The Clock Tower in CHANCELLOR'S COURT/University of Birmingham

点検評価企画委員会がスタート

以下の方々を委嘱しました。自己点検・評価の充実や教育の質保証に向けた企画・立案を行います。

委員長・常務理事 岡 泰道 浜村 釤 デザイン工学部教授

斎藤 利通 公文 副委員長·大学評価室長·社会学部教授 理工学部教授 健蔵 理工学部教授(FD推進センター長) ウ木 法学部教授 III E 忠重 田中 和生 文学部准教授

国際交流センター課長 以上12名 奥山 利幸 経済学部教授 高橋 健悦

認証評価までのスケジュール

経営学部准教授

全ての大学は、学校教育法施行令第40条により、政令で定める期間(大学は7年、専門職大学院は5年)ごとに認証評価機関による評価(「認証評価という」)を受けることが義務付けられています。本学は機関として2007年3月に財団法人大学基準協会より認証評価を受けており、次回は2012年度に受ける予定です。その際、2011年度の「自己点検・評価報告書」が評価の主材料となります。本学では昨年までに蓄積された自己点検・評価活動のエビデンスを活用し、通常の活動と並行して認証評価への準備を行います。

任期2011年1月21日~2013年1月20日

	認証評価までのスケジュール(予定) 2011年		: 6~9月	書面審査(大学基準協会からの質問等への対応)		
:	6月	実務者説明会 申請準備開始	9~10月 12月	実地審査 大学評価結果 (委員会案)の確認		
	2012年 1月 2月 4月	大学評価の申請(各種申請書類提出) 申請受理 追加資料提出	2013年 1月 3月	意見申立 大学評価結果の受理		

NEWS

大学評価室のホームページをリニューアル

4月1日より、大学評価室のホームページをリニューアルしました。リニューアルにあたっては、デザインの刷新だけではなく、教 育の質向上に向けた各種取り組みについて見やすくわかりやすいサイト構築を心がけました。新しくなったホームページをぜひご 活用ください。 http://www.hosei.ac.jp/hyoka/index.html



大学基準協会「改善報告書」ならびに「完成報告書」の検討結果について

2010年7月に、2006年度認証評価結果に関し付された提言に対する「改善報告書」ならびにキャリアデザイン学部、システムデザイン研究科に対する 「完成報告書」を大学基準協会に提出しましたが、この度、特に問題ない旨の結果が通知されました。

第8回大学評価室セミナー

日時:2010年12月16日(木) 場所:九段校舎3階遠隔講義室2(多摩・小金井に遠隔配信)

今回は「ラーニング・アウトカムズを考える・全国学生調査から学生の状況を把握する・」と題して、 同志社大学の山田礼子 教授をお招きしてご講演をいただきました。昨今の大学教育の質保証に関する議論において、「ラーニング・アウトカムズ」 はキーワードのひとつとなっています。講演では、現在同志社大学を中心に実施している「大学教育充実のための戦略的大 学間連携プログラム」を例に教育成果の測定について、わかりやすくお話して頂きました。



内部質保証に関するアンケートを実施

3月11日~31日、専任教職員を対象に内部質保証に関するWEBアンケート調査を実施しました。自己点検・評価項目のうち、全学的な業務や事務部門の 現状に関して、教職員の意識を調査し、その結果を大学全体の改革・改善の資料として利用することを目的としています。調査結果は次号で報告します。

2010年度卒業生アンケートを実施

3月25日、26日にかけて恒例の卒業生アンケート調査を実施しました。今年度は学位授与式が中止となったため、各学部等のご協力により、学位 記配布の際に、アンケート用紙の配布と回収を行いました。調査結果は次号で報告します。

法政大学付属校における学校評価の在り方研究会報告書まとまる

2009年度より実施しておりました法政大学付属校における学校評価のあり方研究会 (座長:川島健司経営学部准教授)の報告書がこのほどまと まり、点検評価企画委員会に提出されました。計7回の研究会と関西地区の大学付属校への聞き取り調査結果を踏まえ、学校評価の考え方、各校 の現状、課題等についてまとめております。今後は、本報告書をもとに、学校評価の導入に向けた検討をさらに進める予定です。

2010年度自己点検・評価報告書を刊行

このたび、2010年度の自己点検・評価活動の成果をまとめた『2010年度自己点検・評価報告書』を刊行しました。A4判660頁に、各学部等の 現状分析、目標、大学評価委員会評価結果を掲載しています。本報告書の内容は大学評価室ホームページでも公開しています。

2011年度自己点検・評価活動がスタート

4月7日に学部を対象にした自己点検説明会を開催しました。公文室長より、学部長・教授会主任の先生方に2011年度の 方針や書類作成方法について説明を行いました。説明会は、大学院、研究所、事務部門と順次開催し、2011年度の自己 点検・評価活動が本格的にスタートします。







大学評価室が設置され2年半が過ぎ、いよいよ認証評価の申 請年度となりました。3月に実施した内部質保証アンケートで は、自己点検に関したくさんの貴重な(厳しい)ご意見を頂てお

ります。こうしたご意見を活かして、未来志向型の大学評価を 作っていければ思います。(田中)



2011年4月発行(通巻7号) 大学評価室ニューズレター No.7 http://www.hosei.ac.jp/hyoka

法政大学 総長室付大学評価室

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 tel 03-3264-9903 fax. 03-3264-4077 e-mail: hyoka@hosei.ac.jp





2008. 4~2013. 3 法科大学院









法政大学 6